



明治150年京都創生

スーパー・メガリージョン構想検討会

資料8

リニア開業により 「世界のハブ・京都」へ



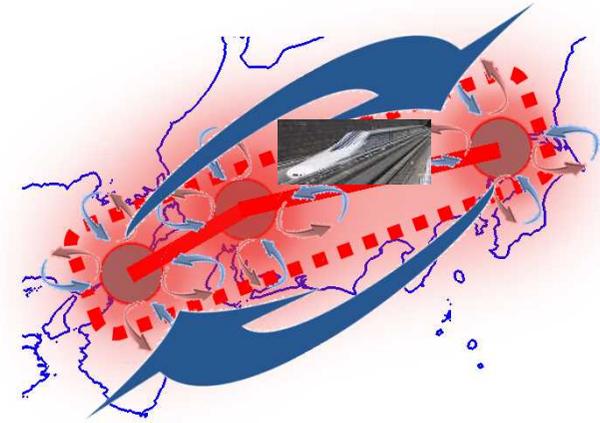
平成31年1月18日

京都府知事 西脇隆俊

スーパー・メガリージョン形成で京都が目指す姿

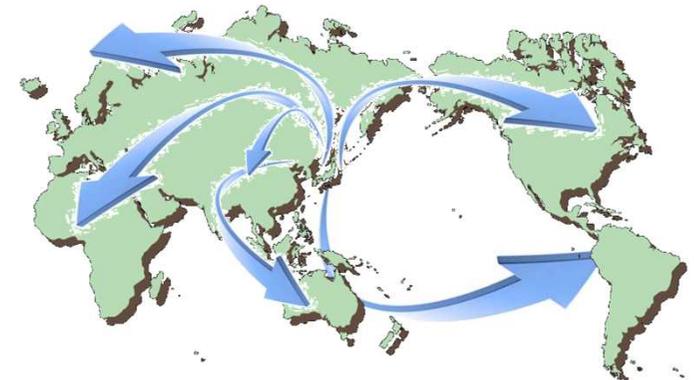
I 国土の双眼構造の構築

- 双眼構造の一翼を担うにふさわしい関西・京都
- オリジナリティのあるハブ拠点



II けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション

- けいはんな学研都市での最先端研究やイノベーションを世界へ



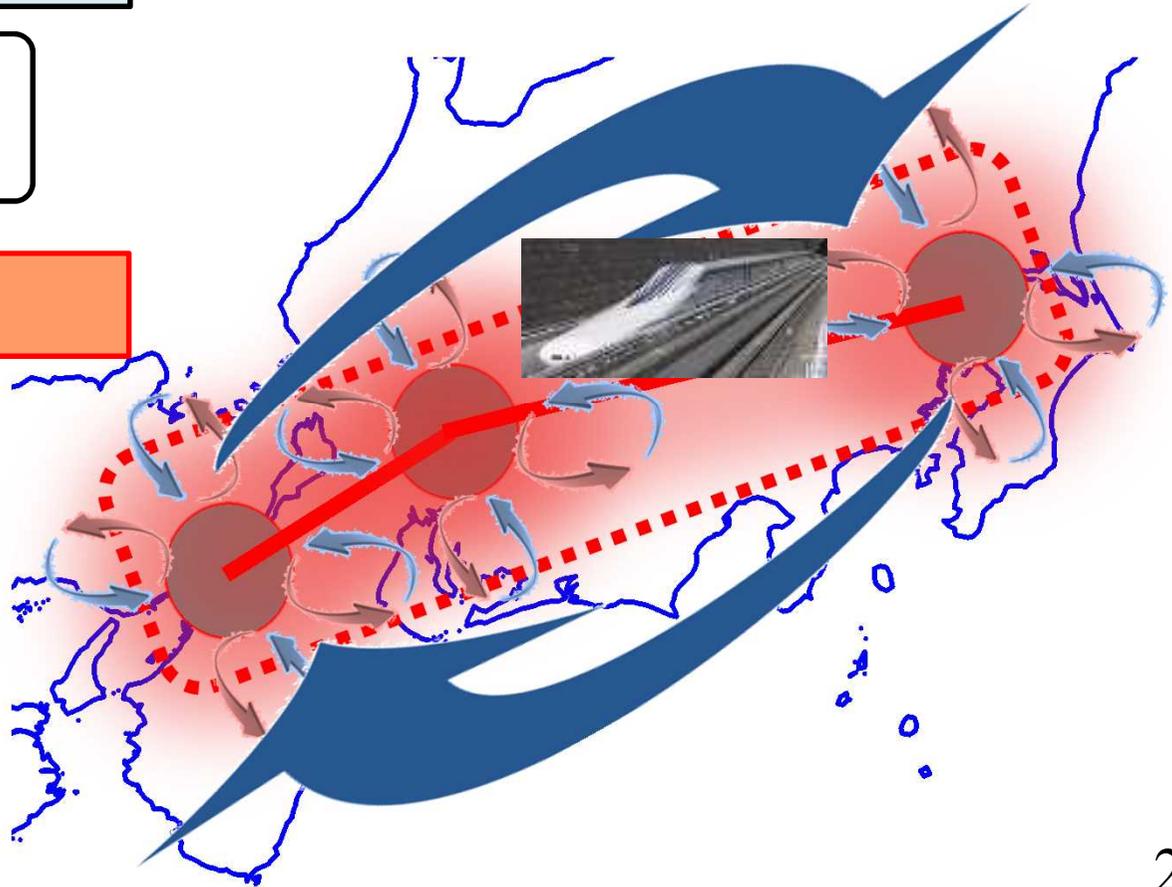
I 国土の双眼構造の構築 ～双眼構造の一翼を担う圏域にふさわしい関西・京都～

スーパー・メガリージョンの形成により国際競争力の向上を

スーパー・メガリージョンの形成

東京一極集中の是正
国土の双眼構造の構築

国際競争力の向上



I 国土の双眼構造の構築

～双眼構造の一翼を担う圏域にふさわしい関西・京都～

東日本大震災をはじめ、近年の相次ぐ自然災害での影響は
単眼型、一極型の社会構造の脆弱性が顕在化

首都にいかなる事態が発生しても首都機能が継続できるよう
機能・権限の分散が必要

双眼構造の一翼を担う圏域 としてふさわしい関西・京都の特徴

- ・首都圏と同時に被災する可能性が低い
- ・京都御所など世界的に価値のある歴史・文化遺産や豊かな自然に恵まれている
- ・国の地方部局、企業の本社、大学・研究機関等が集積
- ・国内外との交通輸送手段や情報通信機能が充実

I 国土の双眼構造の構築 ～オリジナリティのあるハブ拠点～

関西・京都への文化庁移転が決定し、移転準備と機能強化が着実に進捗

- 平成28年3月 「京都への全面的な移転」が決定
 - 平成29年4月 文化庁地域文化創生本部設置(先行移転)
 - 平成29年7月 組織体制の大枠・移転場所・移転時期などが決定
 - ・移転場所: 京都府警察本部本館
 - ・移転時期: 遅くとも平成33年度中の本格移転を目指す
 - ・本庁が京都に置かれ、長官・次長をはじめ約7割の職員(250人程度)が配置
- ➡ 京都府において、新庁舎の設計に着手

着実に進む文化庁の機能強化

①文化芸術基本法の施行(平成29年6月23日)

- ・食文化をはじめとする文化政策の対象拡大

②文部科学省設置法改正法の施行(平成30年10月1日)

- ・文部科学省及び文化庁の任務について、文化の振興に加え、文化に関する施策の総合的な推進を位置付け

文化政策の対象拡大



I 国土の双眼構造の構築 ～オリジナリティのあるハブ拠点～

京都の強み、ブランド力の源泉は「文化」

文化庁の移転決定を契機に、京都のブランド力に更に磨きをかけていく

文化財の集積

○京都府の国指定重要文化財等の件数は2,935件(平成30年4月1日現在)であり、東京都に次いで**全国2位**。文化財建造物に限れば**全国1位**

伝統産業の集積

○京都府は国指定伝統工芸品の数が**全国1位** (西陣織、京焼・清水焼 等 計17品目)

新たな産業の移転

○京都の伝統文化・社寺があることから、技術開発拠点を京都に開設
(LINE上席執行役員/京都新聞インタビュー)

I 国土の双眼構造の構築 ～オリジナリティのあるハブ拠点～

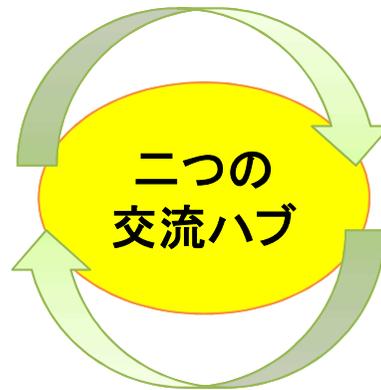
「政治・経済」と「文化」の双眼構造による経済・文化両面から日本創生を

京都として目指すところ

「政治・経済首都」

政治・経済の国際交流
のハブ

新産業の創造による
経済成長



「文化首都」

文化の国際交流のハブ

文化芸術を起爆剤とした
日本創生

「文化芸術立国」の実現

I 国土の双眼構造の構築 ～オリジナリティのあるハブ拠点～

日本における5,000人超の国際会議場は東京・横浜の2施設※のみ

関東・東京だけでなく、文化首都・京都でのMICEの更なる開催を

※東京国際フォーラム
(収容人数5,012人)
パシフィコ横浜
(収容人数5,002人)

国立京都国際会館に最大2,500名収容
のニューホールが完成

MICE開催の拡大

日本の文化芸術・産業の世界への
発信を更に強化

5,000人規模の多目的ホールの
拡張整備が必要



ニューホール(2,500人規模)
(H30.9 オープン)

国立京都国際会館

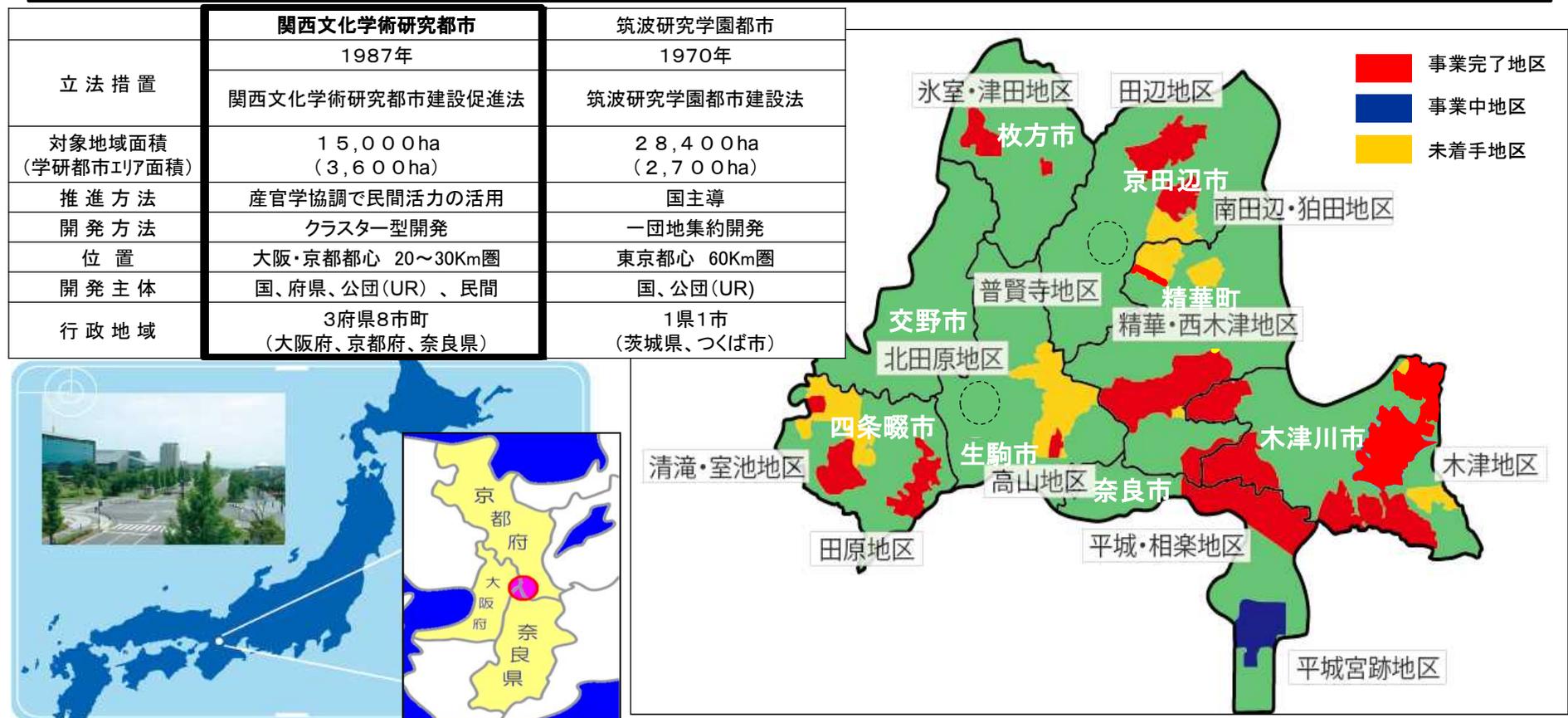
国内「中・大型」国際会議開催件数(2016年)

順位	都道府県	件数
1	東京都	106
2	京都府	62
3	福岡県	53
4	神奈川県	49

出展: JNTO(独立行政法人国際観光振興機構)
暦年別国際会議統計 2016国際会議統計

Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～けいはんな学研都市の概要～

- 京都・大阪・奈良の3府県・8市町にまたがるサイエンスシティ
- (公財)関西文化学術研究都市推進機構を中心に産学公住連携によるイノベーションの推進
(※推進機構の理事会:京都・大阪・奈良の3府県、経済団体、企業の代表者等計15名で構成)



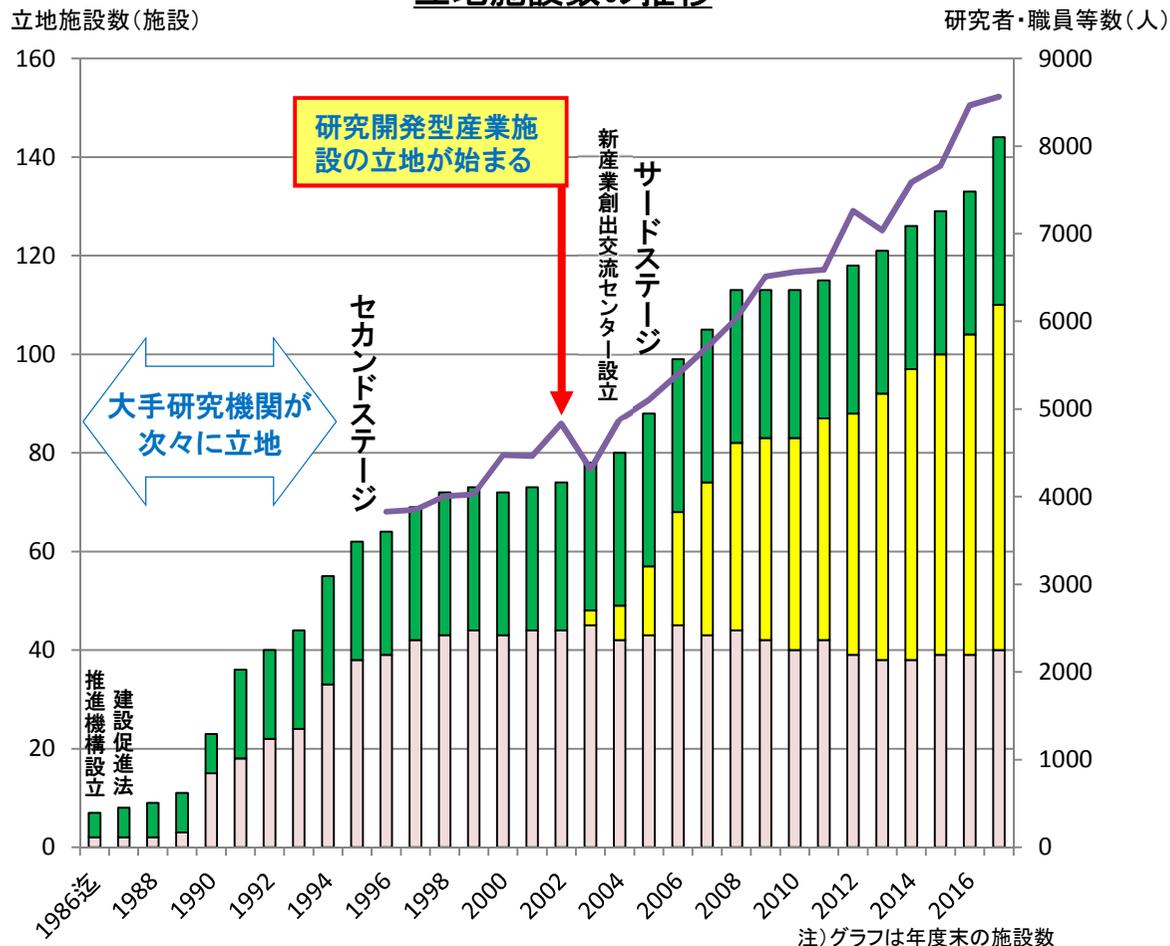
関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)

けいはんな学研都市内の文化学術研究地区(12地区)

Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～けいはんな学研都市の研究機関・企業等の立地状況～

立地施設数・就業者数が右肩上がりで増加し、活気あふれるまち

立地施設数の推移



計144施設 (2018年7月末現在)

- 大学・その他 34施設
- 研究開発型企业 70施設
- 研究施設 40施設
- 研究者・職員等数 9,059人

就業者数・外国人就業者数の推移

(4月1日時点) (単位:人)

年	2009	2018
合計	6,513	9,239
(うち外国人)	(212)	(229)

主な立地施設

【研究施設】	
(国研)理化学研究所(RIKEN)	
けいはんな地区iPS細胞創薬基盤開発連携拠点	
(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)	
(公財)国際高等研究所(IIAS)	
(公財)地球環境産業技術研究機構(RITE)	
(国研)量子科学技術研究開発機構(QST)	
関西光科学研究所	
(国研)情報通信研究機構(NICT)	
ユニバーサルコミュニケーション研究所	
国立国会図書館関西館(NDL)	
	など
【研究開発型企业】	
オムロン(株)京阪奈イノベーションセンター	
NTTコミュニケーション科学基礎研究所	
パナソニック(株)先端研究本部京阪奈地区	
京セラ(株)中央研究所	
(株)島津製作所基盤技術研究所	
サントリーワールドリサーチセンター	
積水ハウス(株)総合住宅研究所	
	など
【大学・その他】	
奈良先端科学技術大学院大学	
同志社大学	
京都大学大学院	
農学研究科附属農場	
京都府立大学精華キャンパス	
生命環境学部附属農場・産学公連携研究拠点設備	
けいはんなプラザ	
けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)	
	など

Ⅱ けいはんな学研都市から世界へ広がるイノベーション ～けいはんな学研都市での実証事業、研究・開発～

けいはんな学研都市で最先端の実証事業、研究・開発を実施

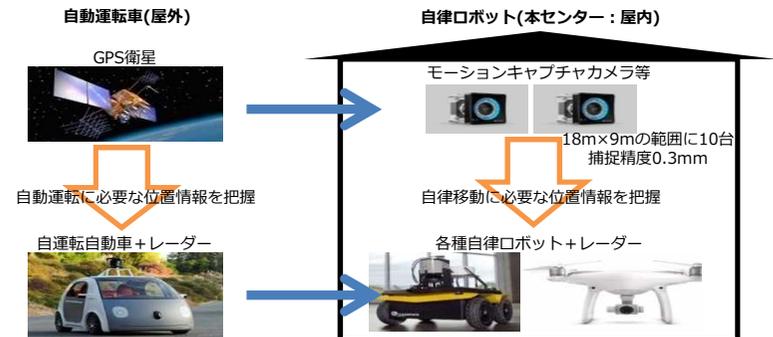
【けいはんなエコシティ次世代エネルギー・社会システム実証プロジェクト】

- 住民参加による電力需要抑制効果等の検証を実施（CO2削減35%を達成）



【けいはんなロボット技術センター】

- ロボットの開発導入実証用の共用空間を全国初で整備
- ロボット関連ベンチャーによるコンソーシアムが結成され、次世代ロボット開発が促進



【けいはんなリサーチコンプレックス】

- i-Brain(脳・人間科学技術)とICT(情報通信技術)を融合し、脳科学分野の研究開発を推進
- IoT生体センサや五感の最適AI制御技術を用いたヒトへの効果の定量解析等を実施

Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～けいはんな学研都市の取組～

けいはんな学研都市に世界中から専門家・研究者が集まり、
けいはんなからスマートシティを共創・発信

【第5回京都スマートシティエキスポ 開催概要】

会 期:平成30年10月4日(木)～10月5日(金)

会 場:けいはんなオープンイノベーションセンター

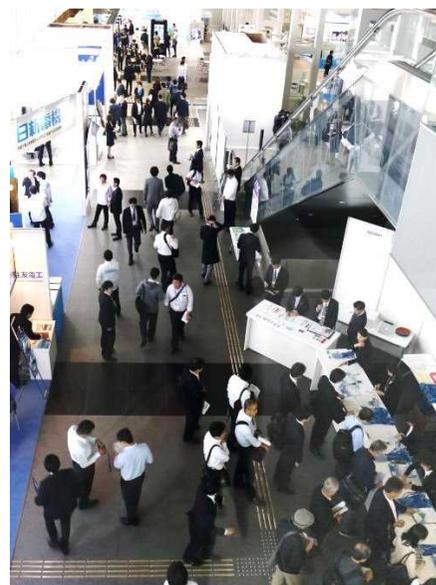
来場者:11,260人(延べ)

(うち外国人520人(20カ国・地域))

スマートシティエキスポの開催状況

	2014(第1回)	2018(第5回)
来場者数	1,800人	11,260人
講演者数	31人	73人
出展者数	41企業・団体	129企業・団体

年々、来場者・講演者・出展者も増加



Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～京都府南部のまちづくり～

京都府南部のインフラ整備が今後、一層促進

【道路網】

- ・新名神高速道路の全線開通(35年度予定)
- ・宇治木津線の整備

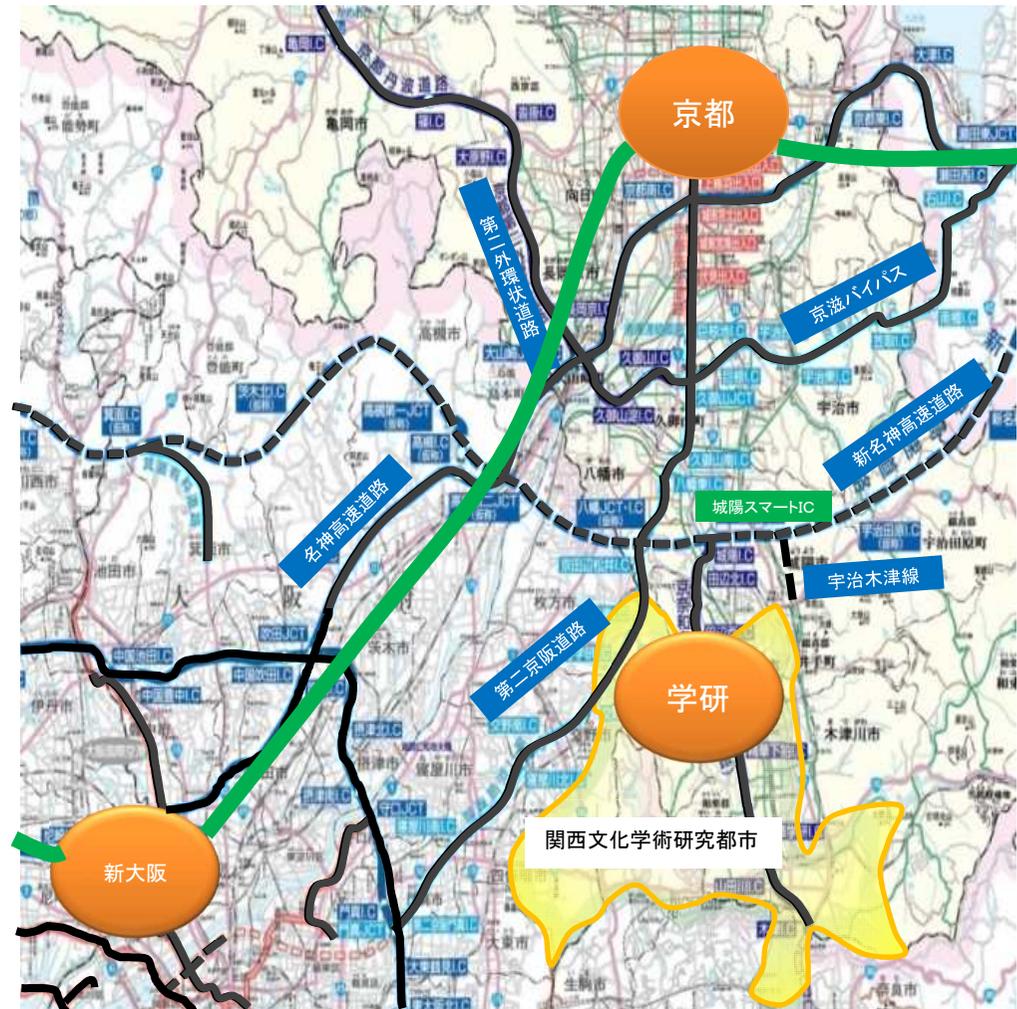
阪神、中京エリアへのアクセス向上

新名神開通後、京都府南部(城陽市東部丘陵)から

→ 神戸港	50分	→ 関西国際空港	70分
→ 名古屋港	65分	→ 中部国際空港	95分

【城陽市東部丘陵地のまちづくり】

- ・420haに及ぶ開発可能地
- ・新名神開通に合わせ、アウトレット、基幹物流拠点を先行的に整備
- ・アウトレット直近に新名神スマートIC整備



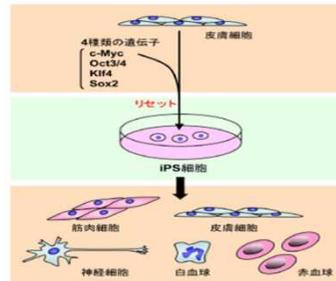
Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～京都産業の世界への発信～

京都には革新し続け、世界の舞台で戦う多様な産業が立地

【iPS関連産業】

○京都大学 iPS細胞研究所や理化学研究所
バイオリソース研究センターサテライトなど、
iPS関連の研究施設が集積

○iPS細胞を利用した創薬・再生医療分野で
ビジネス化



【丹後ちりめん】

○丹後の生地を使った衣装をパリコレで披露



【試作ネット】

○府内約40社の中小企業グループで「京都試作ネット」を創設

○製品の量産化前の「試作」をビジネスに

〔機械金属、IT等の様々な分野で、自社技術を活かした
企画開発も含めた「試作」でのビジネス化〕

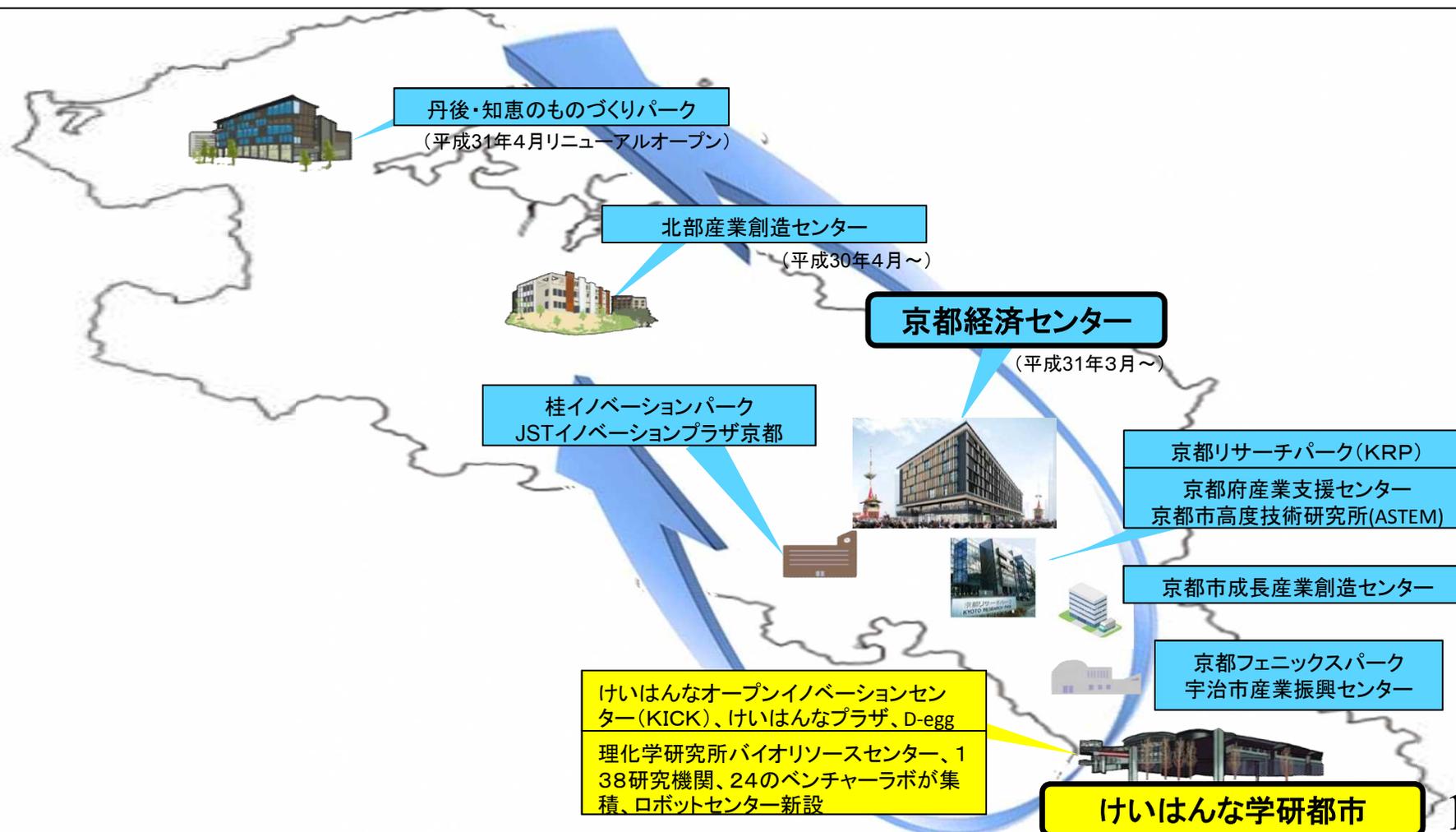
既存技術 → 試作 → 量産化



放熱フィン

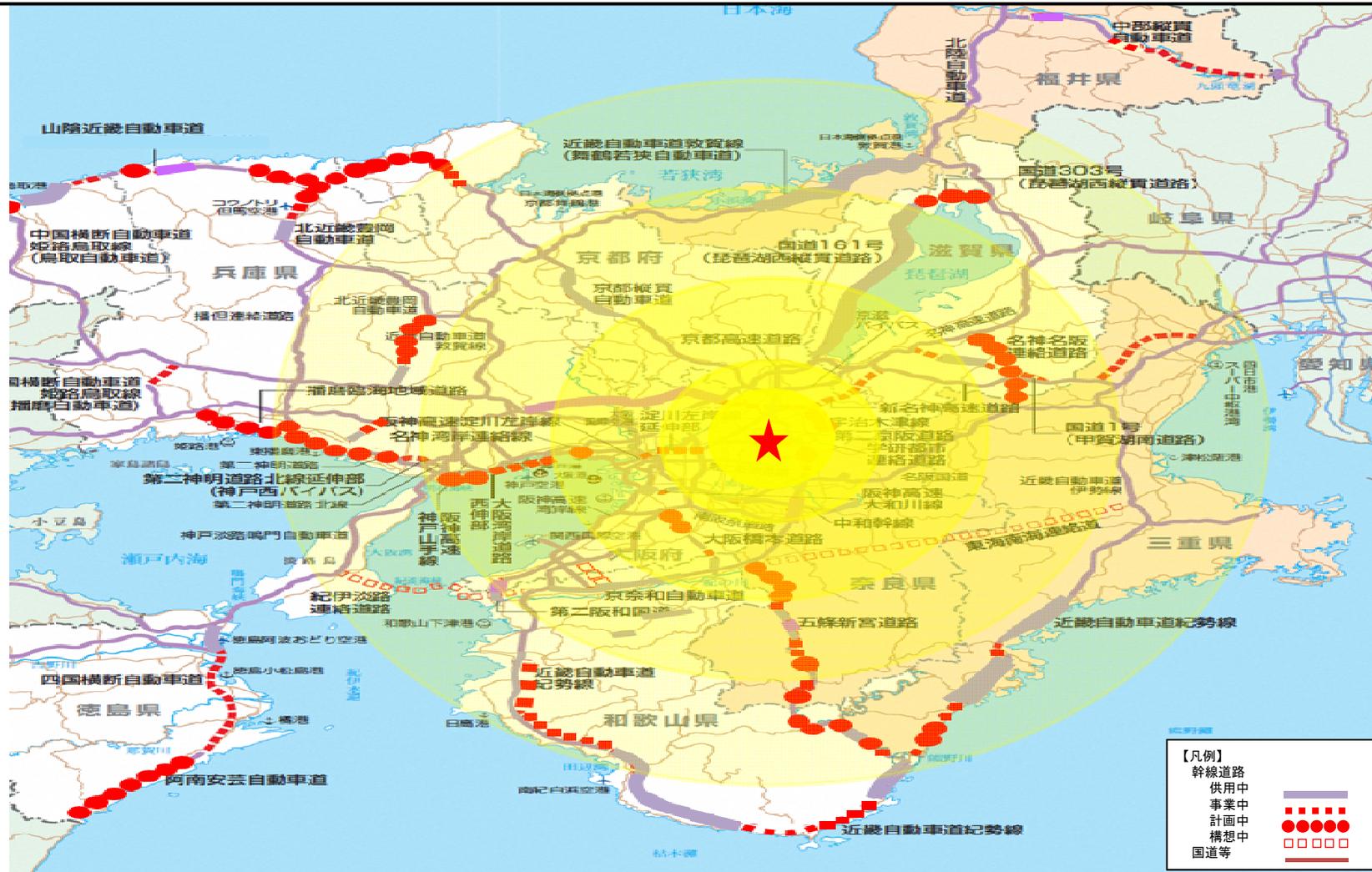
Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～京都府におけるオープンイノベーションの推進体制～

京都経済センターをハブとして、北から南までの主要イノベーション拠点、大学、世界的に活躍する企業の研究所、産業支援機関等のオープンイノベーションネットワークを構築



Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～けいはんな学研都市から全国に広がるイノベーション～

今後のインフラ整備により、けいはんな学研都市・京都の存在感が一層向上

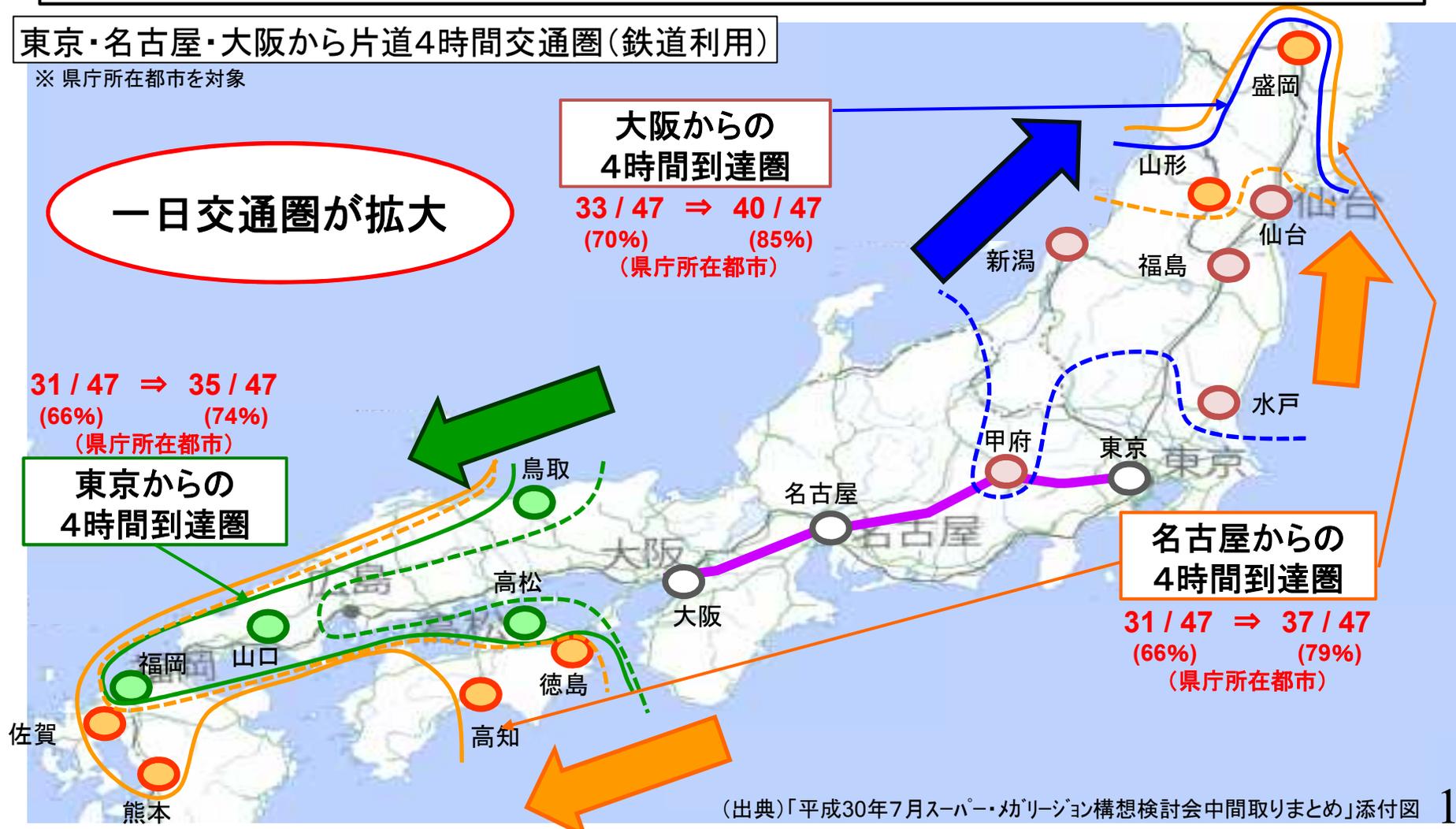


Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～SMRの形成によるけいはんな学研都市との交流圏域の拡大～

スーパー・メガリージョンの形成により、けいはんな学研都市を中心とした
交流圏域が更に拡大

東京・名古屋・大阪から片道4時間交通圏(鉄道利用)

※ 県庁所在都市を対象



Ⅱ けいはんな学研都市・京都から世界へ広がるイノベーション ～けいはんな学研都市の将来構想～

けいはんな学研都市の成果を府全域・関西・全国・世界へ

世界最先端のスマートシティづくり

- ・AIやIoT等次世代技術の活用（けいはんな公道走行実証実験プラットフォームなど）
- ・住民参加型の次世代エネルギー実証事業
（けいはんなエコシティ次世代エネルギー・社会システム実証プロジェクトなど）

→超快適スマート社会の「モデル都市」を構築

日本トップレベルのオープンイノベーション

- ・けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）における産学連携・共同研究開発プロジェクト（次世代型蓄電装置、ウェアラブル医療機器、けいはんなロボット技術センターなど）

→グローバルオープンイノベーションの拠点に

新しいハブ拠点の形成

研究機関や企業の更なる集積と
ネットワークの拡大

地理的優位性とポテンシャルを
活かした府南部地域の形成

イノベーションの断続的な創出

学研都市の成果を府全域、関西、全国、全世界へ

ご清聴ありがとうございました



京都府広報監 まゆまる